

企画展「生薬^{しょうやく}～自然からの恵み～」
千葉県立中央博物館×薬屋のひとりごと

県立中央博物館（千葉市）では、「旧千葉県薬草園生薬^{しょうやく}標本コレクション」を中心に、生薬（漢方薬のもととなる動植物や鉱物）について自然誌と歴史の視点から紹介する展示を開催します。

本展では、大人気小説『薬屋のひとりごと』とコラボレーションし、著者と薬の専門家による対談やキャラクターフォトスポットなど、生薬の魅力を一層楽しめる特別企画も予定しています。

古^{いにしえ}から受け継がれる知恵の宝庫、生薬。多様な生薬が紡ぐ、薬の物語をお楽しみください。



1 開催概要

会期 令和8年3月14日（土）～6月15日（月・県民の日）

会場 県立中央博物館（千葉市中央区青葉町955-2）

開館時間 午前9時～午後4時30分（入場は午後4時まで）

入場料 一般500円、高校生・大学生250円

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料

※6月15日（月）県民の日はどなたでも無料

休館日 月曜日（ただし5月4日、6月15日は開館）、5月7日



当館HP

2 展示構成

(1) 生薬ことはじめ

葛根湯などの漢方薬に使用される意外と身近な生薬。この章では、生薬とは何か、生薬と漢方薬の違いなど、生薬についての基礎的な情報を紹介します。



「朝鮮人参」

(2) 自然からの恵み

「旧千葉県薬草園生薬標本コレクション」から、①植物、②菌類、③動物、④鉱物のカテゴリごとに代表的な生薬を紹介します。

(3) 温故知新

生薬及びそのもととなる自然物に関する学びを古今東西の文献で紹介し、過去と現在、世界と日本・千葉県のつながりをご覧ください。



「^{れいし}霊芝」 マンネンタケの乾燥品

- ①中国からの学び
- ②日本独自の学び
- ③西洋からの学び
- ④西洋への日本の動植物の紹介

(4) 妙薬おゆずりください

近世から近代の房総の生薬を製薬・売薬・服薬の切り口で紹介し、生薬が人々の手元に届くまでを追いかけます。



「^{ごおう}牛黄」
牛の胆石

「^{しゆしゃ}朱砂 (辰砂)」
硫化水銀のかたまり

(5) 薬屋のおしごとは、今

現代の薬屋である薬剤師を中心に、その養成課程である薬学部や関連業種について広く紹介します。また、県内にある薬草園を紹介します。



『日本山海名産図会』巻之二より
「斧を以て熊の手を撃つ」



やげん
薬研

3 『薬屋のひとりごと』 コラボ企画概要

(1) トークショー「毒と薬」

小説『薬屋のひとりごと』の著者・日向夏先生と、植物の毒と薬のスペシャリスト・
山崎真巳教授（千葉大学薬学部）による対談です。

日時 4月29日（水・祝）午後1時～4時
会場 当館 講堂
定員 150名（申込期間：3月29日（日）～4月15日（水））
応募者が定員を超えた場合は抽選。申込方法は後日当館HPに掲載。
料金 無料

(2) オリジナルクリアしおりプレゼント

小説『薬屋のひとりごと』のイラストを手掛ける
しのとうこ先生によるオリジナルクリアしおりをプレゼント。
展示の入場者先着1万名様、お1人様1枚限りです。



※オリジナル
クリアしおり
イメージ

©日向夏/イマジカインフォス イラスト:しのとうこ

(3) 小説『薬屋のひとりごと』額装高精細 デジタルカラーイラスト展示

しのとうこ先生によるカバー画・口絵のイラスト12点を、
企画展示室内で生薬標本等とともに展示します。



©日向夏/イマジカインフォス イラスト:しのとうこ
※フォトスポットのイラストイメージ

(4) 『薬屋のひとりごと』キャラクターフォトスポット設置

企画展会場入り口の2階ホールで猫猫と壬氏の等身大パネルが
お出迎え。記念撮影をしてみてくださいはいかがでしょうか。

オープニングイベント

日時 3月14日（土）午前10時45分～11時
※11時から引き続きミュージアムトーク（展示解説）を行います
内容 館長挨拶
担当研究員による展示趣旨説明
対象 どなたでも
参加方法 当日受付
料金 無料（別途入場料が必要です）
会場 当館 2階ホール

取材申込

取材を希望される方は、3月13日（金）正午までに申込みをお願いします。

県立中央博物館 管理部企画調整課 TEL：043-265-3111

E-MAIL：kouhou_cbm@mz.pref.chiba.lg.jp

4 関連行事

■体験イベント「薬になる生きものの缶バッジをつくろう」

当館オリジナルのぬりえ缶バッジを作ります。

日 時	3月15日(日) 午後1時30分～3時 4月26日(日) 午前10時30分～正午、午後1時30分～3時
対 象	どなたでも
定 員	3月15日(日) 50名 4月26日(日) 各回100名
参加方法	当日受付
料 金	材料費100円(4月26日は、別途入場料が必要です)
会 場	3月15日(日) 当館 1階ホール 4月26日(日) 当館 2階ホール

■観察会「生態園で薬になる植物を観察しよう」

薬として使われてきた身近な植物、ヨモギやフキなどを生態園で観察します。

日 時	3月22日(日) 午後1時30分～3時
対 象	どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
定 員	20名
参加方法	当日受付
料 金	無料
会 場	当館 生態園

■体験イベント「薬研^{やげん}で入浴剤をつくろう」

生薬などを細かくきざむ薬研という道具を使って、オリジナルの入浴剤を作ります。

日 時	4月12日(日)、6月15日(月・県民の日) 午前10時30分～11時、11時30分～正午、 午後1時30分～2時、3時～3時30分
対 象	どなたでも
定 員	各回12名
参加方法	当日受付
料 金	無料(別途入場料が必要です)
会 場	当館 2階ホール

■体験イベント「生薬クイズ～いろんな生薬見てみよう～」

生薬を楽しく学べるブックレットを手に、生薬クイズにチャレンジ！
実物の生薬にもさわってみましょう。

日 時	5月3日(日)、6月7日(日) 午前10時30分～正午、午後1時30分～3時
対 象	どなたでも
定 員	なし
参加方法	当日受付
料 金	無料(別途入場料が必要です)
会 場	当館 2階ホール

■観察会「日本大学薬学部薬用植物園見学会」

日本大学薬学部薬用植物園にて、展示で紹介する伝統的な生薬の元になる植物の生きている姿を観察します。

日 時 5月4日(月・祝) 午前10時～正午
対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
定 員 20名
参加方法 事前申込(申込期間:4月4日(土)～4月20日(月))
料 金 保険料50円
会 場 日本大学薬学部薬用植物園(船橋市)

■トークショー「現代の薬屋のおしごと」

現代の薬屋である薬剤師。薬局、行政、企業の3つの立場から、そのお仕事を紹介します。

日 時 5月10日(日) 午後1時～4時
対 象 どなたでも
定 員 [会場]150名、[オンライン]定員なし
参加方法 [会場]当日受付、[オンライン]当館HPから(4月10日以降、当館HPに掲載)
料 金 無料
会 場 当館 講堂

■観察会「佐倉ハーブ園見学会」

佐倉ハーブ園で、世界のハーブと生薬の元になる植物を五感で観察・体験します。

日 時 5月24日(日) 午前10時～正午
対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
定 員 40名
参加方法 事前申込(申込期間:4月24日(金)～5月10日(日))
料 金 保険料50円
会 場 佐倉ハーブ園(佐倉市)

■講座「史料でたどる生薬の歴史」

今から少し昔の房総では、どのような薬が作られ、売られ、利用されてきたのでしょうか。史料から歴史の一端をのぞいてみます。

日 時 5月31日(日) 午後1時30分～3時
対 象 中学生以上
定 員 20名
参加方法 事前申込(申込期間:4月30日(木)～5月17日(日))
料 金 資料代50円
会 場 当館 研修室

■ミュージアムトーク

研究員による展示解説を行います。

日 時 会期中の毎週土曜日と、3月20日(金・祝)、4月5日(日)
各日 午前11時～11時30分、午後2時30分～3時(当日受付、定員なし)
料 金 無料(別途入場料が必要です)
会 場 当館 第1企画展示室

しょうやく 生薬

～自然からの恵み～

Natural Medicine -Gifts from Nature-

千葉県立中央博物館

薬屋のひとりごと
Kusuriya no Hitorigoto



これが、薬!?

資料はいずれも「旧千葉県薬園生薬標本コレクション」(当館所蔵)

令和8年

3.14(土) - 6.15(月)

県民の日

開館時間 9:00 ~ 16:30 (最終入場 16:00)

休館日 月曜日、5月7日(木) (ただし5月4日、6月15日は開館)

入場料 一般500円(400円) 高校生・大学生250円(200円)

※()内は20名以上の団体料金

※次の方は無料: 中学生以下・65歳以上の方(年齢を示すものをご提示ください)

障害者手帳をお持ちの方(手帳もしくは手帳アプリをご提示ください)及び介護者1名

※6月15日はどなたでも入場無料

千葉県立中央博物館

住所 〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2 (青葉の森公園内)

電話番号 043-265-3111 (代表)



シリーズ累計発行部数
4500万部突破の人気書籍

薬屋のひとりごと

とのコラボ企画
入場者先着1万名様に
オリジナルしおりプレゼント!

お1人1枚、無くなり次第終了。
絵柄は右とは異なります。

ミュージアムショップで
オリジナルグッズも販売!



©日向夏/イマジカインフォス イラスト:しのとうこ

特別協力: イマジカインフォス

協力: アリオ蘇我、大多喜町、京葉銀行、そごう千葉店、千葉銀行、千葉県病院薬剤師会、千葉県薬剤師会、千葉興業銀行、千葉市薬剤師会、千葉大学薬学部・環境健康フィールド科学センター、(株)千葉薬品、東邦大学薬学部、(株)常磐植物化学研究所・佐倉ハーブ園、日本生薬学会、日本大学薬学部、mitosaya株式会社

後援: 朝日新聞千葉総局、NHK千葉放送局、千葉テレビ、千葉日報社、ベイエフエム、毎日新聞社千葉支局、読売新聞千葉支局

生薬は、動植物や鉱物などの天然物を加工して薬としたもので、古から伝わる知恵の宝庫です。
 中国の故事では、薬と農業をつかさどる神様、神農が薬草と毒草を見極めるため、赤い鞭（赭鞭）で百草を払い、これらの草をなめて薬効や毒性の有無を検証したと言われています。人は生きるために必要な薬を野山に求め、使用方法を探求してきました。

この展示では、旧千葉県薬草園生薬標本コレクションを中心に、「生薬ことはじめ」「自然からの恵み」など5つの章で構成し、生薬について紹介します。今も昔も、私たちの身近にある生薬。多様な生薬が語る、薬の物語をお楽しみください。小説『薬屋のひとりごと』の複製原画も展示します。



▲ 乳香※ ▲ 秋石※ ▲ 塩附子※ ▲ 「斧を以て熊の手を撃つ」(日本山海名産図会) ▲ 薬研

資料はいずれも当館所蔵。※印は「旧千葉県薬草園生薬標本コレクション」

トークショー 事前申込

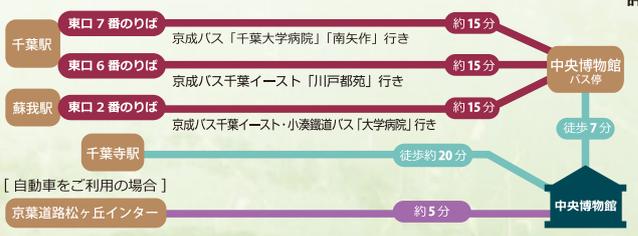
「毒と薬」 4.29(水)祝

大人気小説『薬屋のひとりごと』著者の日向夏先生と、植物の毒と薬のスペシャリスト山崎真巳教授（千葉大学薬学部）が異色のコラボ対談！人を惹きつける「毒と薬」について熱く語ります。



- トークショー 当日申込 5.10(日) 現代の薬屋のおしごと
- 観覧会 事前申込 3.22(日) 生態園で薬になる植物を観察しよう
- 事前申込 5.4(月) 日本大学薬学部薬用植物園見学会
- 事前申込 5.24(日) 佐倉ハーブ園見学会
- 講座 事前申込 5.31(日) 史料でたどる生薬の歴史
- 体験イベント 当日申込 3.15(日)・4.26(日) 薬になる生きものの缶バッジをつくろう
- 当日申込 4.12(日)・6.15(月) 薬研で入浴剤をつくろう
- 当日申込 5.3(日)・6.7(日) 生薬クイズ～いろんな生薬見てみよう～
- ミュージアムトーク 当日申込 会期中の毎週土曜日と、3.20(金)・4.5(日)

詳しいイベント情報はこちら



公式SNSで情報配信中